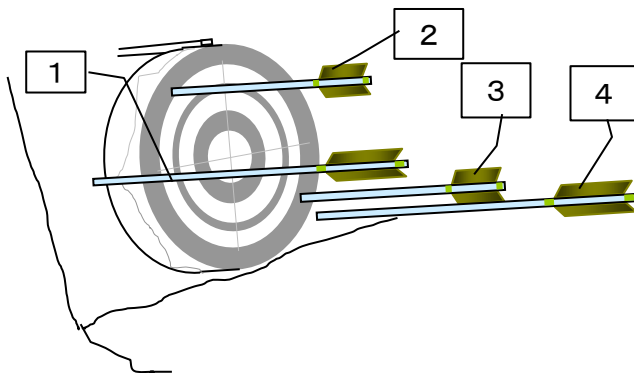


《的場に出る前に》

- 1 矢取りのペースは、四矢の行射ごとに一回行うことを原則とする
- 2 弾を外す。女子は胸当てを外す
- 3 矢取り道の歩行は矢道側を避け、壁側を素早く通る ⇒安全確保
- 4 「落的」で引いている間は矢取り道を往来しない ⇒安全確保
- 5 一人でも引いている間は矢取り道を往来しない ⇒安全確保
- 6 看的所に入ったらドアを閉める
(注)中にいる間、開けない(矢の飛び込みに注意)
- 7 「のぞき窓」から引き終ったことを確認して、看的所前で射場に手で確認の合図をする
- 8 矢取り道から直接的場に入るときも、看的所前で射場に手で確認の合図をする
- 9 射場からの「おねがいします」の声を聞いて、「警報ランプ」を点灯し安全を確認して的場に出る

《的場にて》 ※矢とり動作は丁寧に、かつ素早く行う

- 1 的の下座(9時側)にいて矢を抜く。(注)上座(3時側)にいて抜かない
- 2 できるだけ蹲踞の姿勢で抜く
- 3 原則として大前の的から二的、三的、...の順に矢を抜く
- 4 左手で的を押さえ、右手で矢を持ち矢筋通りにまっすぐ抜く
- 5 中り外れに関係なく、矢の抜き易さと矢羽根の損傷を避けるため手元に近い方から抜く
- 6 1本づついいねいに抜く ⇒複数まとめて抜くと矢、羽根を損傷する
- 7 抜いた矢は一本毎に左手に持ち替える
(注)抜いた矢を右手にもったまま次の矢を抜かない
- 8 羽根が左手の親指側にくるように矢を持ち替え、目の前で羽根の状態が確認できるように持つとよい
- 9 「矢拭き布」を持って的前に出ない。矢を抜きながら矢拭きをしない
- 10 的枠に刺さった矢は無理に抜かない ⇒持ち主に抜いてもらうか看的所に的ごと持ち込んで処置する
- 11 看的所に持ち帰る
(注)持ち帰りながら的場土間にて矢先を揃えることはしない



矢を抜く順序

《看的所にて》

- 1 「警報ランプ」を止める
- 2 乾いた布(タオル等)で矢を丁寧に拭く ⇒強く握らず、音を立てず
- 3 拭き終った矢を揃え、右手で矢じりを、左手で矢の真中辺りを軽く持つ
- 4 「のぞき窓」から射場の安全を確認して、ドアを開け、矢取り道に出たらドアを必ず閉める

《帰りの矢取り道》

- 1 歩行は矢道側を避け、壁側を素早く通る ⇒安全確保

《射場の矢立てに矢を戻す》

- 1 両手で丁寧に矢立てに立てる (注)音を立てない